

国連調査報告

南スーダン「保護失敗」

国連施設182棟が被弾

国連は1日、南スーダンの首都ジュバで今年7月、政府軍（SPLA）と反政府勢力による戦闘が発生し、多くの民間人や国連スタッフ、援助関係者が政府軍に襲撃された際、PKO（国連平和維持活動）の国連南スーダン派遣団（UNMIS）が「保護に失敗した」との調査報告書を公表しました。

7月8日から3日間続いた戦闘で、政府軍が国連のホテルを襲撃し、スタッフらが殺害、略奪、レイプの被害に遭いました。被害者はただちにUNMISSに「駆け付け警護」を要請したものの、部隊は動きませんでした。

これについて報告書は、襲撃者を「政府軍」と断定し、レイプなどの被害があったこと

を認めました。その上で、UNMISSに「準備不足」「指揮系統の乱れ」があったと指摘。さらに、「リスク回避」や「内向きの姿勢」が見られ、地元住民や援助団体からの信頼を失ったと述べています。

報告書は加えて、国連施設182棟が銃弾や迫撃砲、さらにロケット砲などで被弾し、国連施設の間近で攻撃ヘリや戦車が使われたと指摘しています。自衛隊の駐屯地近くでも激しい戦闘が発生し、最近まで宿営地外の活動を自粛していました。

日本政府は同国に派